

# こもれび

弊社の睡蓮が咲きました。朝起きて夜眠る。  
睡蓮とはよく言ったものです。

2021年(令和3)8月 No.152

話の前後しますが、お盆の飾りの花束やおがらを手にする方の姿や、迎え火などをする様子をあまり見掛けなくなると家で話をしていた日の夕刻に、たまたま菩提寺のご住職から、この東京のお盆(七月)の文化をしっかりと継承し、無くしてはならないと聞きました。

七月のお盆のことで恐縮です。通常はそれぞれ夕刻に行うご先祖様のお迎えと送りですが、私の家では、十三日の迎え火と十六日の送り火を早朝に行っています。母から受け継ぎ、数十年間全く違和感もなく同じようにしてきましたが、来年から送り火だけは夕刻にしようと思います。

私の知人は、嫁いってから毎日のようにお姑に厳しくされてきたので、彼女の迎え火は十三日の夜暗くなつてからで、送り火は十六日の明け方早々に済ませていました。お姑との接触・滞在時間を最小限にする目論見ですが、それでもきちんとご先祖様方を迎えるところは、どこことなく微笑ましく思えました。

## 文化を伝えること

株式会社溝口祭典 溝口勝巳

私の家では毎年、お仏壇にお盆の飾りを設えて、季節の花と青物野菜、ソーメンや水の子を供え、ご僧侶に拙宅で棚経を上げていただきます。ご住職のお話を伺いながら、私はこのことだけを子供たちに伝えていたことを振り返っていました。当時の母の様子を思い出すと、仏壇の飾り付けはいつも母が一人で行い、そして私が学校から帰宅すると「お盆の時はあまり外出しないこと」「今ご先祖様が来ているよ」などとよく言われたものでした。さらに母は墓参して背負って連れてきたご先祖様にも話し掛けていました。

もうそれから随分と経ちました。いまようやく、神事や仏事は、ご縁のある人それぞれが主体的に臨むことで文化が継承されると気がつきました。これは、同じくご先祖様がお帰りになるお正月も、大切な人を送るご葬儀でも同様なことが言えます。

来年の送り火は薄暮の中に行い、皆で手を振りながら、両親をはじめご先祖様を見送るつもりです。

## 自然の中で見つけた一コマ こすもすギャラリー



「お姫様の住まい」  
バラとウロコアシナガグモ



「秋の始まり」  
シュウカイドウ (秋海棠)



「午後の三時間しか咲かない」  
ハゼラン(三時のあなた)



「グリーン飛行隊」  
オンパッターとデンマークカクタス



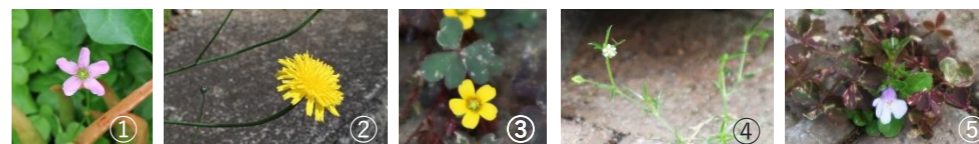
「若葉と新米」  
カンタン



「白は新人、黄色はベテラン」  
くちなしの花

● こもれびをご覧の皆様から「自然の中で見つけた一コマ」を募集いたします。「こもれび自然の中の一コマ」というタイトルでメール送信してください。 [km@mizoguchi-saiten.co.jp](mailto:km@mizoguchi-saiten.co.jp) 簡単な説明書きを添えていただければ幸いです。よろしくお願いたします。

【お詫び】 前号の表紙の雑草の名称を誤って掲載してしまいました。謹んでお詫び申し上げます。訂正いたします。また、ご指摘をくださいました皆様に厚く御礼を申し上げます。



- ① イモカタバミ → ムラサキカタバミ
- ② セイヨウタンポポ → ブタナ
- ③ アカカタバミ → ウスアカカタバミ
- ④ キュウリグサ → ノミツヅリ
- ⑤ オオイヌフグリ → トキワハゼ

## 9月10月・セミナーのご案内

### ● 9月のセミナー / 【お葬式を考える！】

#### 第1回

「いろいろなお葬式のかたち」(無料)

9月1日(水)午後4時～5時  
定員 10名

「お葬式」と聞くと、どのような形式を想像しますか？

仏式葬儀以外にも、神道やキリスト教式、それとも無宗教・・・など、いろいろなお葬式の形があります。

どのようなお葬式の形があるかを知ること、自分の希望もはっきりしてくると思います。

一緒に考えてみませんか。

#### 第2回

「自分で決めるお葬式」(無料)

9月25日(土)午前10時～11時  
定員 10名

「私の葬儀はどのようにしたい」というお考えはありますか？

人生最後のセレモニーに、ご自身の希望を入れることができます。

お気に入りの写真で遺影を、またご家族への感謝の気持ちを伝えるなど思い残すことのないよう、様々な想いを形にしてみませんか。

生前契約のご案内もいたします。

### ● 10月のセミナー (まちゼミにも掲載中)

「納棺のすべて-亡き人を送り出すために」～現役納棺師による納棺の実演をお見せします～

10月23日(土)午前10時～11時 / 10月28日(火)午後4時～5時

定員：各回7名(無料) 講師：上原 武史(式典部主任・一級葬祭ディレクター)

葬儀担当者と現役の納棺師が「納棺」について熱く語ります。

- \* 亡き人をお棺に納める際に、なぜ「旅支度」をするのか？
- \* なぜ、亡き人の体を拭くときに逆さ水を用意するのか？
- \* きれいなお別れができるために納棺師は何をしているのか？

- 全セミナーは、こすもす斎場(八王子市元横山町2-14-19)で行ないます。
- 参加ご希望の方は、お電話にて事前にお申し込みください。
- お申込み・お問合せ先 **株式会社 溝口祭典 042-642-0921**

### 人形供養会の報告

令和3年  
5月22日  
於：こすもす斎場



人形供養会は久しぶりの開催でしたが、きちんと供養したい方がこんなにもたくさんいらっしゃったのは想定外でした。集まったお人形たちは813体。その壮観さは写真を見ていただければお分かりいただけるでしょう。

長い年月を共に過ごした大切なお人形たち。後ろ髪ひかれる思いで持ち込んだ方もいらっしゃると思います。皆さんの「ありがとう」の気持ちをお経にのせて、送り出しました。お人形たちとの思い出は、これからもずっと皆さんの心の中に残ることでしょう。



## お茶の子さいさい

第1回 網代茶舗から ajirochaya へ

こもれびの読者のみなさま、はじめまして。このたび溝口さまからのお申し出で、つたない文章をかくことになりました。八王子市横山町の網代園と申しますお茶屋でございます。おもいつきままの乱文です。意の足りませぬ処はご推察の上、ご笑読くださいますように。

まずは自己紹介から。網代と申しますと、静岡県伊豆半島の網代が有名ですが、我が家は、現在のある野市、サマーランドの北西の『網代』から、明治二〇年ごろ、八王子に出てきた人が初代です。

当時、お茶は絹織物と同様に外貨獲得のための大切な輸出商品でした。そこで、お茶処、狭山から横浜にお茶を運ぶために、經由地として八王子を選んだのではないかと考えています。『絹の道』と呼ばれる街道を通過して、お茶を横浜まで運び、港にアメリカ行きの船があれば大儲けですが、船がなければ二束三文で港に置いてきたという、ばくちに近い商売だったようです。今のよう通信手段がない時代は、仕方なかったのでしょう。

戦前は、輸出の他、卸問屋としても営業しておりました。現在、西放射線ユーロードになっている場所に茶工場があり、狭山から運んだお茶に火入れ(乾燥)をして、販売していたそうです。

戦争が始まると、お茶は統制品になりました。どこのお茶屋も、一号・二号といった等級を使い、同じ値段をつけなければなりません。現在もうちの店で使っている『網代園一号・網代園二号』という茶銘は、当時の名残です。

戦後は、一般家庭向けの小売業が主体となり、西武鉄道の開発によって、茶畑が少なくなりました。狭山茶の量を減らし、静岡茶中心の商売をしています。

## アメリカ合衆国唯一の宮殿 イオラニ宮殿

ホノルルのダウンタウンにある「イオラニ宮殿」は、アメリカ合衆国に現存する唯一の宮殿だった建造物です。

一八八二年にハワイ王朝七代目のカラカウア王によって建てられ、その後八代目となったカラカウア王の妹のリリウオカラニ女王が、一八九三年に白人に王位を剥奪され王国が崩壊するまでの十一年間、公邸として使用されてきました。その後一九五九年にハワイがアメリカ五十番目の州となり、新州庁舎ができるまでの約七十五年間、ハワイ政治の中心地でした。

完成した一八八二年は日本では明治十五年、その当時、宮殿内には水洗トイレや水・お湯両方できるシャワーや電話もあり、当時イギリス・パツキングラム宮殿にもなかった電気設備を設え、ホワイトハウスよりも早く電灯もついていたそうです。カラカウア王は新しい物好きだったと言われていますが、それにしても太平洋の小さな島に立派な宮殿があり、さらには様々な設備もあったということには驚かされるばかりです。



一階の公のエリアも二階のプライベートな部屋もセンスが良く、豪華な装飾品や食器など一見の価値がある物ばかりです。また今では貴重品となっているハワイ固有種のコアの木を使った階段の踏み板や、賓客を迎える「王座の間」の王座は一四〇年前当時のオリジナルを見ることが出来ます。

イオラニ宮殿はハワイの悲しい歴史の一面もあり、王位を剥奪されたリリウオカラニ女王が、反乱の首謀者という容疑を掛けられ幽閉されていた場所でもあります。幽閉された八ヶ月の間に彼女が作ったハワイアンキルトのオリジナルも「幽閉の間」で見ることが出来ます。

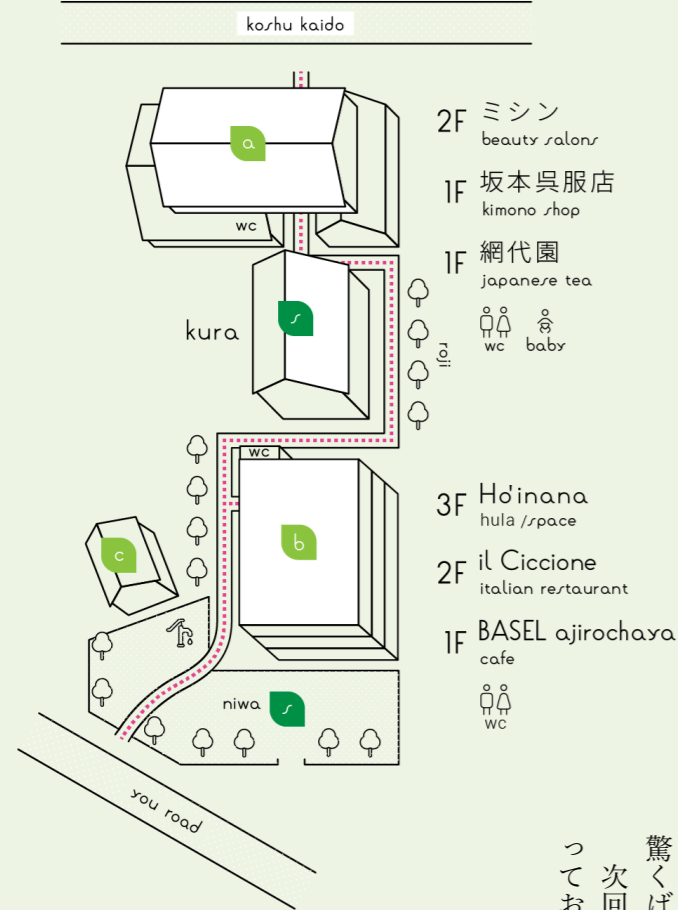
イオラニ宮殿を訪ねるなら、ガイドツアーに参加するのがおすすめ、もちろん日本語ツアーもあります。金曜日には中庭でロイヤル・ハワイアン・バンドの無料演奏会も開かれるなど、一度は訪れてみたい場所のひとつです。

伊藤恵里子(第十五回)

現在は、明治三〇年ころの八王子の大火・大正一二年の関東大震災・昭和二〇年の八王子空襲を耐えた大の蔵、戦後すぐに建てた母屋、昭和四二年建築のユーロード側の三階建てビル、そして平成二八年に新築した甲州街道側の店舗と、時代を超えた建築による、小さな小さな商業施設『ajirochaya』として生まれ変わりました。近くにお運びの際は、ご覧くださいます。

ところで、お茶といえば、長い伝統がある文化のように思われていますが、現在のような急須で淹れるお茶が一般家庭に浸透したのは、戦後、昭和三〇〜四〇年代といわれています。それ以前は、各家庭の庭先にあるお茶や、他の木の葉っぱを乾燥させ、煮出して飲むのが普通でした。戦後復興期に、都会へ働きに来た方たちが、お茶を購入して飲むようになったのです。それが五〇年ほどの間に、ペットボトル飲料にまでなってしまったのですから、その変化に驚くばかりです。

次回は、急須のお話をしたいと思います。お待ちしております。



網代園  
〒192-0081 八王子市横山町10-14  
Tel.042-643-0333  
Fax042-643-0334  
定休日 土曜日  
営業時間 平日 9:00~19:00  
日曜・祝日 9:30~18:00



あさみ りえ／株式会社レ・ミゼラ 代表取締役、Les Misera Culture School～日本に息づく心配り～運営・講師。音楽・舞台業界、製薬医学業界での勤務経験を経て、2011年3月15日に独立。事務業務の代行を行う事業を営む傍ら、『お箸と風呂敷は心を育ててくれる存在である』という想いの下、“お箸”と“風呂敷”をアイテムとして“日本に息づく心配り”の伝承に努めている。1児の母。

◎ 浅海先生が YouTube チャンネルを開設されました。  
Les Misera Culture School 関連サイト <https://linktr.ee/misera>



(c)Les Misera Inc.

風呂敷のルーツとされている布は、現在、奈良の正倉院に所蔵されている収納専用包みです。この時代における包みは「ものを包む」ための存在であり、名称も『風呂敷』ではなく「つつみ」と呼ばれていました。また、平安時代においては「古路毛都々美（ころもつつみ）」と呼ばれている包みがあったことや、頭上運搬をするためにモノを包んでいたことが分かる古文書が存在します。その後も包み布は「平包」と呼ばれ、『風呂敷』という名称には至りません。しかしながら史実からは、つつみが「モノを大切に包み、保存したり、運んだりするための道具」（存在であったという）ことがうかがえます。

を運搬できる「風呂敷くような布」は、各家庭ではもちろんのこと、人力運搬を行う多くの行商人にとって最も便利なアイテムとして利用され、急速に普及するのです。



(c)Les Misera Inc.

室町時代に入り、ようやく「風呂敷」に関わる史実が見受けられるようになります。最も有名な「風呂敷」と「風呂敷」の古い関わりを示すお話は、三代将軍足利義満が客人をもてなすにあたって大湯殿に通したところ、皆が脱いだ衣服を家紋入りの布に包み、風呂敷から上がるとその布の上で身繕いをしたというお話です。またこのことを踏まえて、この時代に包紙や包飯、包物など「包」という文字の付いた呼称が多く存在していたことから「風呂敷で敷くような包みもの」であった「平包」を、即ち『風呂敷包み』と呼んだと推測されています。その後、銭湯が庶民へ普及したり、商業が活発化した江戸時代に入ると、家紋や屋号、商標を表示でき、また形を選ばずに様々なモノを運搬できる「風呂敷くような布」は、各家庭ではもちろんのこと、人力運搬を行う多くの行商人にとって最も便利なアイテムとして利用され、急速に普及するのです。

### 風呂敷の原点

### 風呂敷誕生！

### 変わらない原点

# 『お箸と風呂敷でぬくもり溢れる平和な世界を』

## 第5回 ～変わらない原点～

浅海 理恵

皆さま、こんにちは。連載もいよいよ第五回となりました。お読みくださっている皆さまにまず最初に心より御礼申し上げます。

ここまで数回に渡って『お箸』の存在に迫り、お箸の歴史や、そこに込められている日本ならではの意義を紐解くことで、日本においてお箸が、非常に尊い存在であり、その扱いは心の在り方が表現されること、そして日々のお箸使いで心を育めることをお伝えして参りましたが、もう一つ、心を育めるおススメのアイテムがあります。『風呂敷』です。

昨今エコやSDGsの観点から再び注目を集めた『風呂敷』ですが、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

- ・和装に合わせて用いるモノ
- ・時代劇で泥棒が使っているモノ
- ・手間がかかるモノ
- ・扱いが難しそうなモノ

など。いずれにしても愛用するほど身近に活用されている方は少ないかもしれません。愛用者が決して多くはないように思える『風呂敷』。更には、素敵なバッグや、様々な便利グッズが世の中に溢れている昨今。にもかかわらず、

現代に至ってもなお、何故風呂敷はなくならないのでしょうか？また、そもそも風呂敷はどのような存在だと思いにありますか？この答えに、私が後世に伝えたい「こころを育ててくれる風呂敷」の所以が詰まっています。今回から数回に渡って風呂敷の存在を紐解いていくことで、この点をお伝えできればと存じます。

さて、どのようなモノを『風呂敷』と呼ぶのか、皆さまはご存知でしょうか？実はその定義はとて単純明快なのです。

### 丈夫な四角い布

### 二・四角いこと

『風呂敷』における四角形は、実は正方形か否かを問いません。むしろ縦が少し長い方が、より内容を満足に包めることもあり、古くからの風呂敷の形状は少し縦長になっています。



(c)Les Misera Inc.

### 三・布であること

布であることも『風呂敷』の大切な要素です。柔らかく、失敗しても何度でも包んだり結んだり直すことができます。また裂けてしまわない限り、何十年、何百年と使い続けることができ、心や歴史をも伝承するVことができるのです。

一方で実はこの『風呂敷』、元々の目的は「運搬」ではありませんでした。ここで少し、諸説ある歴史的な歩みや語源説の一部をご紹介します。

こうしてみるとお箸に比べて『風呂敷』はとても歴史が浅いように感じますよね。しかしながら、風呂敷の原点は「包む」ことです。

### 【包むことで、大切なモノを保護する】

この点については、「つつみ」と呼ばれた時代から、『風呂敷』と呼ばれ、商いに活発に用いられた江戸時代、更には現代に至るまで変わっていません。

また、この「包む」という所作は、例えば神事において進物を白紙に包むように、古くから我々日本人の精神の礎にあります。ヒト・コト・モノを大切に想い扱う気持ちや、そこに込められた心を体現することなのです。

今回は所作表現にフォーカスをあてることで『風呂敷』という存在により迫りたいと思います。どうぞお楽しみに。